有隣印刷株式會社職工の工場管理

（中川担任）

一　はしがき

之を量的に考察するならば此の争議の如きは微々たるものである、僅かに五万円の資本と旬日を出でざる争議日数と四十一名の全従業員に依りてなされたるに過ぎない此争議は何等の留意も要しないであらう。しかしながら之を質的に考察するならば「争議より工場管理の実現」を見たる此の争議は我邦労働運動史上に於て看過すへきものではない、否特筆大書さるべき便値を有するのである。抑も「工場管理問題」は大正十年七月神戸に於ける川崎三菱造船所の争議に於て初めて労働争議の問題となり運動史上の一新記録を作ったのである。当時の争議団最高指揮者たる賀川豊彦は「暴力に依る工場占領ではなく一産業に依る全労働者の合意的決意に依る建設的企図である」と高称した、全國労働者は之を以て労働階級の威力と